

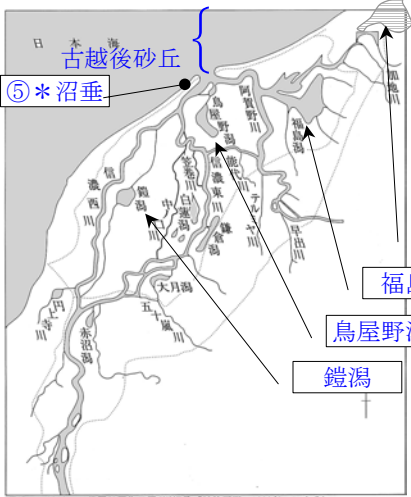
魚いおのはなし 古岩船潟のおもかげ

旧石器時代から縄文時代へかけて連綿と続いた自然環境に対する脅威と、狩猟生活からの生活教訓は常に大地との対話に連なり、それは地名として刻み残されています。その生活遺産を残した文化的記憶が、アイヌ語の中に継承されていてそのイメージを現代人にも描き伝えられることは幸いなことといえます。特に生活に密着していた川や水に関する形跡が、文字の背後に鮮やかに潜んでいることは歓喜に堪えません。

□地名に残された古地形の伝承

『日本の地名散歩』大友幸男著、三一書房1997
※上記書籍を参照していますが、想像の域に没している解釈も含まれます。読者の方からの客観的なご指摘を歓迎いたします。

← 独立水系の河川口



『越後平野の1000年』榎根勇著
新潟日報事業社出版部 1985



＜アイヌ語として確認できる表音イモ＞
[川、沼、湖]—トツ、ツツ、ウツ、ナイ、シン
[水、湿地]—アク、アツカ、ワッカ、ウオル
[浜]—ウタ、オタ、ヌタ
[岸、陸]—ヤツ、ヤト、バツ、リイ、ビバ(崖)
[船、舟]—フィナ、フィナ、チフリ
＜古朝鮮語として確認できる表音イモ＞
[川]—ゲン、ガン、ガツパ

- ＜自然地形＞*他地域
- ①牛沢—ウツ・サバ—入江(湾)の浜・頭
 - ②牛屋—ウツ・ヤバ—入江(湾)の浜・岸
 - ③湯端—ワッカ・タ・バ—水・切る・岸
 - ④七湊—ナ・ム・オ・トウ—川・陸出る・海
 - ⑤浦田—ウタ—(砂)浜、早瀬
 - *沼垂—ウ(ヌ)タ・リイ—浜の・高い—堤防
 - *十和田—トウ・ウタ—湖の・浜
 - ⑥瀬波—シマ(スマ)—西の
 - *四万十—シマム・トウ—西の・大川
 - ⑦山居—サン・キサラ—前に開けた・耳型の・海
 - ⑧山辺里—サン・ベツ・リイ—前に開けた・小川・高い
 - *三内—サン・エイ—前に開けた・川
 - ⑨(上)助淵—スケ・ベツ・チェブ—鮭の・川・魚
 - ⑩神林—ガン(朝)・バ・ヤチ—川・岸・湿地
 - ⑪神納—ガン(朝)・ノツ—川・のど
 - ⑫仲間(町)—チュウ・ゲン(朝)—波の・川
 - ⑬新保—シン・ポロ—川・大きな
 - ⑭塩谷—シン・オ・ヤト—川・尻・岸
 - ⑮宿田—ヤム・ス・ズ・ウタ—冷たい・泉・浜
 - ⑯色部—イオツ・パツ—魚・小川
 - ⑰平林—ビバ・バツ・ヤチ—崖の・岸・湿地
 - ⑱桃(川、崎)—モム・モム—流れる
 - ⑲大津—オホ・トウ—深い・川
 - ⑳都伎沙羅—トウ・キサラ—海(湖)の・耳型の
 - *本更津—キサラ・トウ—耳型の・海の
 - *胎内—タン・サイ—谷・沢
 - *新潟—ナイ・ガタ—川・端の平
 - *山形—ヤム・チ・ガタ—冷たい・陸・端の平
 - *秋田—アク・ウタ—弓形の・浜

＜文化的＞
A岩船—イェウ・フィナ—神住む・船
B日下—チュブ・カ—日の・かみて
C坪根—チュブ・ボク・ナイ—日の・しもて・川
＜神社＞
い河内神社—水神「式内」の宮河内神社に由来
る岩船神社—京都貴船明神を「式内」石船神社に合祀
は多岐神社—宗像三女神の湍津たぎり姫(早瀬の意)を祀る
に西奈彌神社—敦賀の氣比けの神、保食うけもち神を祀る
ほ金比羅神社—船の神を祀る(朝)
へ大山祇神社—伊予国大三島の百済渡しの神を祀る
と秋葉神社—駿河国秋葉山の火伏せ神、川岸に鎮座
ち八坂神社—藤原氏(中御門家)の氏神—天神雷神
り八幡神社—宇佐地方一円にいた大神氏の氏神
ぬ白山神社—加賀国白山、白山比咩ひめ神を合祀
る熊野神社—紀伊国熊野三山から勧請された神社

□古岩船潟は運河へそして穀倉地帯へ
平成の現在では日本有数の穀倉地帯を誇っているこ
北越後の古代から中世にかけての地形は、幾多の河川
からなる河口に大きな古岩船潟(琵琶潟)が形成される汽
水流域でした。そこから獲れる鮭に代表される魚類や水
海産物は地域を潤してくれていました。
信濃川以北の古越後平野には大小幾つもの潟が存在
し、それらは一連の運河水系を成していたことが研究事
例から解明されています。畿内から蝦夷松前地区にかけ
ての北前船が発達した背景とされ、内海として航海の安
全を支えていたことが想像されています。
その後の気候変動による多雨と河川堆積物の増加や
地盤の沈降、地域住民による干拓事業などによる幾多の
変遷を重ねて現在の穀倉地帯にまで至っていることは、
今後とも解明されてゆくことが期待されています。

